

あもーる ふあつち

三島由紀夫氏が石原慎太郎氏と会談された中に「ニーチエのamor fati」じゃないけれども、**自分の宿命を認める**

事、人間にとって、それしか自由の道は無いというのが僕の考えだ。amor fatiとはラテン語で「**運命の愛**」の意。

ニーチエの運命観を表わす用語。彼によれば、運命は必然的なものとして人間にかぶさってくるが、これに忍従するだけでは**創造性**がない。むしろ、この運命の**必然性**を肯定して自己のものとし、愛しうるとき、人間の本来的な創造性を発揮しうるといふ。「幸・不幸も含め全て運命・宿命と定めるのが自分を処理しやすいのだろう。」

台風シーズンも終わりホットしております。台には最高最大という特別な意味がございませぬ。台風はさしずめ風の王様として恐れられています。特別なお寺、浄土宗で言えば大本山 光明寺等)の住職を台下とお呼びしています。宗派で言えば天台宗は台が付いていますが、私の解釈では、これは中国の天台山脈で発した中国天台宗の流れを最澄が入唐し日本に持ち帰ったことによると思ひます。台密です。これに対し真言宗の空海が入唐し持ち帰ったのを東密としています。又、天台山脈の最高峰を華頂山と言ひます。浄土宗の総本山知恩院の山号は因みに華頂山です。隣には台湾があります。話戻りまして、各家の食生活の要、大事なところが台所です。我々の人生で大きな失敗があれば**台無し**という事になります。一般的に踏み台という様な使われ方をします。仏教的には佛様がお座りになられるところを台座といひますし、我々が亡くなりますと蓮台に魂が乗ります。この様に台の使われ方も様々です。**台頭**という言葉もございませぬ。**諦めずに頑張**りましよう。

二十日に皇后様が誕生日を迎えられました。八十四際になりました。初めて民間から皇室に入った約六十年間を回想。皇太子妃、皇后という立場を生きることは、私にとり決して易しいことではありませんでした」と、振り返られました。又、現在のお気持ちを次のように発表されました。抜粋です 私も陛下のおそばで、これまで通り国と人々の上によきことを祈りつつ、これから皇太子と皇太子妃が築いていく新しい御代の安泰を祈り続けていきたい」と代替わり後、公務はなくなるが日本や世界の出来事に目を向け、心を寄せ続けていければと思ひています」とつづられた。明治天皇もこんな御詠を残して見えます。身にあまるおも荷なりとも国の為 人のためにはいとほさらなむ」と、皇族の方は偏に国の行末を、国民のことを念頭に置いて見えます。各宗祖も万民の幸せに道を通して伝授していただきました。まず師を敬う事から始まります。良寛禪師は 靈山の釈迦のみ前に契りてし事は忘れじ世はへだつとも」と尊厳に意を表しました。道元禪師は 峰の色 谷の響きもみなながらわが釋迦牟尼佛の声と姿と」と、詠まれました。法然上人の弟子で平家の落人であった、勢観房源智上人は法然上人がお亡くなりになられる二日前に懇願し、**念仏の安心年頃御教誡にあづかるといえども、なお御自筆に肝要の御所存、一筆あそばされて、たまわりて、のちの御形見にそなえ侍らん」と、最後の説法をお願いされました。これこそが、一枚起請文です。浄土宗の金言になっています。**

岡崎市に昭和三十九年に現在の場所で開催した岡崎城西高等学校があります。初代の校長を岩城留吉先生が務められました。入学式の祝辞で生徒を前にして 雲の上は晴れてるぞ」とおっしゃったそうです。この言葉は多分 夢窓国師の 雲よりも高き所に出て見よ しばしも月に隔てやはある、人生はいかなる障害物ありといえども、打破していけば晴れ晴れとした境涯に出るなり。というような意味でしょう。

三十年十一月一日

善壽男善入院油地蔵尊